

## 部会報告

### 防災（地域連携）

#### <24年度の課題>

「防災を手がかりに地域とのつながりを考える」をテーマに、①「つながる」（地域との情報交換や関係づくりを進める）、②「協働する」（出前講座や防災訓練を様々な世代と実施する）、③「広める」（ニュースやHPなどで情報を発信する）ための取り組みを行う。

#### <24年度実施内容>

施設や地域の防災訓練や出前講座を通じ、障害者への理解を広め、地域との連携や協働の可能性を探った。救命情報カプセルの配布について地区社協と、各地域の要援護者対策などについて区社協と情報交換を行った。横浜市の防災計画の見直し案について検討し提言した。防災ニュース2・3号を発行（自治会町内会へ全戸回覧）し情報発信を行った。

#### <実施後の課題>

地域防災拠点と特別避難場所との連動的な関係づくり、地域密着型の体制づくりにつながるような取り組み（例えば特別避難場所の開設訓練など）が行えなかった。

#### <25年度の方向性>

「つながる」「協働する」「広める」ための取り組みは引き続き行うとともに、④として市の「防災計画」修正案や区の「20万区民の自助・共助による減災運動」などと要援護者対策や特別避難場所の開設が連動するような仕組みづくりのために、「提言する」取り組みも行う。また、「私の避難場所シート」の見直しを行う。

### 防災（防災訓練）

#### <24年度の課題>

訓練実施事業所への支援。地域との連携。訓練後のフィードバックなど

#### <24年度実施内容>

- ① 10月13日（土）B型グループホーム（二館）にて大地震を想定した訓練実施。
- ② 2月25日（月）日中事業所にて大地震、火災を想定した訓練実施。
- ③ 2月28日（木）B型ケアホームにて大地震、火災を想定した訓練実施。

#### <実施後の課題>

訓練を実施したことにより、訓練の必要性和新たな課題（避難経路の確保や地域との連携など）がより明確となった。

#### <25年度の方向性>

- ①各事業所での訓練の実施。②災害想定（津波や火事など）の考察。
- ③地域防災拠点と特別避難場所合同訓練実施へ向けての協議。
- ④消防署との連携。

住居部会（個別課題）  
＜24年度の課題＞

GH交流会の内容の反映をしながら、地域で住まれている方の事例を通して課題を考えていく。

＜24年度実施内容＞部会5回 GH交流会3回

部会においては、事前に年間のスケジュールを組んで担当を決め、各機関の課題ケースについて話し合いを行った。  
GH交流会においては、毎回20名以上の方が参加してテーマ「余暇・食事等」を決めてグループディスカッションを行い、交流を深めた。

＜実施後の課題＞

事前に予定を組んでいたもので、進めやすかった。しかし、GH交流会からの意見の吸い上げは出来なかった。又、単発の内容であった為、とりまとめが出来なかった。

＜25年度の方向性＞

居宅事業所を含め、多くの方が参加できるようにしていく。具体的には世話人さんが参加しやすいように交流会を多くしていく。（年4回）交流会後に振り返りを行い、次回について話し合う。又、部会単独としては、GHでの成功体験を話し合う場として交流会に情報提供できるようにしていく。  
部会名称「個別課題」→「世話人（グループホーム）交流会」と分かり易くする。

住居部会（まちで暮らす）  
＜24年度の課題＞

一人暮らしを希望される方のケースを取り上げて課題を抽出していく。

＜24年度実施内容＞6回

一人暮らしの希望者が見つからない為、既に単身生活をされている方について周りからみた関わり等を行った。  
具体的には、地域（民生委員）の方、単身者を支えている支援者、長期入院された方の地域移行など都度、関係者に協力して貰い。

＜実施後の課題＞

単身生活を支えていく為には、本人、地域の方と支援者と連携を図っていく必要がある事を再認識した。

＜25年度の方向性＞

事例を挙げて具体的に出来る方法を検討していきながら、課題を抽出していく。（事例としては、2つを検討していく。）1つは、保証人が手配できずに賃貸契約ができなかった方についてどうすれば保証人が出来るのか。1つは、住んでいた所で周りに迷惑（騒いでクレーム）をかけて出ていく事になった方について今後の生活にどのようなものがあるのかを考えていく。

情報（事例検討）  
＜24年度の課題＞

困難事例検討による地域課題の抽出や日々の支援に活用出来る情報の共有を図る。

＜24年度実施内容＞5回

様々な課題を抱える障害・高齢のケース検討を実施し、情報共有や意見交換を行った。また、障害種別や分野を超えた各事業所における支援の実際を話し、交流や相互理解を深める場となった。事例提供を通じて得た気づきやアドバイスをもとに、関わりや状況など進展し、その後の支援に活かしたケースもあった。

＜実施後の課題＞

地域課題の抽出まで至る話し合いは出来なかったが、継続的に困難事例を検討する場の必要性や意義を改めて感じた。

＜25年度の方向性＞

引き続き、「日々の支援に生きる情報交換・共有の場」として困難事例に取り組みつつ、地域で改善すべき課題の掘り起こしも行う。

情報部会（発信）  
＜24年度の課題＞

独自のホームページ（障害児・者の余暇とボランティア情報）を各機関に働きかけ、掲載協力を得ながら充足した内容にしていく。

＜24年度実施内容＞4回

広報活動として、部会内の事業所情報（余暇）を集めたり、ホームページの内容見直し（項目の簡略化）を行った。又、すまいるガーデンのパンフの空きスペースにホームページの案内を掲載した。

＜実施後の課題＞

広報活動を行ったが、周知（ホームページのカウンター数が挙がらなかった。）までは出来なかった。

＜25年度の方向性＞

ホームページに事業所紹介など絵を入れたりして見やすくするようにしていく。自支協の部会案内（日程）などを掲載して関係機関にも周知をしていく。

移動・送迎部会  
＜24年度の課題＞

行政、関係機関とも話し合いながら、通学支援が必要な方へのアプローチを行い、出来た事、出来なかった事などの評価を行う。

＜24年度実施内容＞3回実施

現在の移動送迎に関わるサービス利用状況を確認した。区社協の送迎サービスは殆どは通院時に利用。（通学には利用されていない。）入所者の福祉パスは、職員が運転して移動する為利用していない事が分かった。その上で、学校の協力を得て通学支援の実施を試みたが、25年度から移動支援の見直し等があり、健康福祉局との調整が取れず未実施に終わった。

＜実施後の課題＞

制度見直し前に実績を作り、検証したかったが出来なかった。25年度から横浜市では通勤、通学（個別支援級以外）の利用が出来るようになった。

＜25年度の方向性＞

通勤・通学に移動支援が使える事になり、居宅事業所と関係作りを行う事を目的に年間数回の居宅事業所との交流会を実施予定。その運営を本部会にて実施する事としました。

当事者部会  
＜24年度の課題＞

商品の向上、宣伝活動、アンケートの活用など販売全体の促進を図り、工賃アップにも繋がりたい。また、新しく販売の販路拡大も目指していく。

＜24年度実施内容＞

月1回の販売促進会議を行い、新たに「ダンボ」が加入された。又、イオンから話を頂き11月から月一回店頭販売を行う事になりました。又、「携帯電話の使い方」講座を開きました。他には手入れとなった「カラオケ大会」も2月に行いました。

＜実施後の課題＞

スマイルガーデンの販売員が継続できなくなり、老人クラブにお願いする事になりました。引継ぎ期間が無い為、4月から暫くは各出店者が協力して進めていく事が課題の1つです。

＜25年度の方向性＞

区役所のスマイルガーデンとイオンの販売を継続できるように進めていく。又、販売協力できる事業所の拡大を図っていく。

こども部会（事例）

<24年度の課題>

今年度より実施。事例を持ち寄りながらケースのアプローチ方法の検討。又、地域の小中学校との交流を目的として部会を立ち上げた。

<24年度実施内容> 2回

初回は事例を通して関わった事業所の情報交換が出来たり、各機関から意見が出たりして活発な部会を開けた。2回目も同様に普段関わりの少ない機関とも交流が図れるようになった。

<実施後の課題>

事例提供が細かく、且つ同意を得るような形で進めた為、事例提供者が少なかった。今後は、事例もだが共通の課題などから話をする事で活発な意見交換を出来るように進めたい。

<25年度の方向性>

24年度と同様に進めていくが、開催回数や事例提供の仕方などを見直して各機関から多くの事例や意見が出るように進めていく。

こども部会（余暇支援実行委員会）

<24年度の課題>

区づくりの余暇事業について、本協議会と連携して障害児の取組みを行う事で情報の共有、職員間の交流を図れるようにしていく。

<24年度実施内容>3回実施

年間3回委員会を開き各機関の報告があった。今年度から横浜国大とボランティアの協力が得られて各活動に参加して貰った。

- ①ふれんどサポート（ゆめ）平日コース、休日コースを月2回実施した。
- ②ほっとフレンズ（ケアプラザ）夏は2カ所（ヒップホップ、太鼓他）冬（運動会）の年2回実施した。
- ③この指とまれ（社協）夏、冬、春と3回実施した。
- ④サマーダック（あひるの会）夏に19回の活動を行った。

<実施後の課題>

横浜国大生のボランティアの協力が得られて各活動を運営する事が出来た。ほっとフレンズについては、協議会の職員が当日に見学に行き交流を図った。

<25年度の方向性>

24年度と同様に協議会と交流を図りながら各事業を進めていく。又、区社協では、区域単位からもうすこし小さな地域ごとに展開していく。